

(2024年3月05日)

◎ 「広島市中央図書館再整備 結局いまだーなってるの？」 (*リンク参照) **報告**

～「平和文化」都市の現在地～

広島市の中央図書館移転問題に端を発し、広島のみちづくりを何とかしたいと憂う若い人たちが「ひろしまのシビックプライド（市民力）を考える会」を2022年に結成。

これまでトークイベント等を開催し、問題提起をしてきたが、築25年の広島駅前の第三セクター商業ビル「エールエールA館」へ移転することが昨年決まった。

今年になって中央図書館が保存する、旧広島藩主浅野家から寄贈された貴重な浅野文庫を市長公館廃止後の跡地に新築するため、追加で37億円の予算を見込むというニュースが飛び込んできた。「現地建替えより、移転の方が安い」と言っていた市側のロジックが崩れただけでなく、決め方に疑問を感じざるをえず、現時点でのおかしな点をまとめて紹介している。

日時：2024年2月13日（火）20:00～22:00

会場：Social Book Cafe ハチドリ舎/オンライン配信

主催：ひろしまのシビックプライドを考える会



出席者：左より、今田順（ブックキュレーター）、清水浩司（ライター）、谷口千春（ミナガルテン代表）、橋本幸（メディア関係）、平尾順平（ひろしまジン大学代表理事）、宮崎園子（フリーランス記者）、安彦恵里香（ハチドリ舎店主）

これまでの経緯

安彦：2022年2月、広島市が「子ども図書館・中央図書館・映像文化ライブラリーを集約し広島駅前の商業ビルエールエールA館の8～10階に移転する」と発表した時、これはおかしい、何とかしなければと思い立った同世代の仲間たちが集まって、この会を立ち上げ、同年5月にキック・オフ・イベント「ひろしま未来カルチャー会議 Vol.1 どうする！？わたしたちの図書館！」を開催。

同年8月に「パブコメ切直前10時間耐久緊急生配信」を開催し、国内外の理想的な図書館や作り方を紹介したり、ゲストを迎えて望ましい図書館にするための提案等の意見交換を行い、パブリックコメントの参考にしてもらった。

同年11月に「いまだーなってる！？図書館問題」をテーマにタウン・ミーティングを開催し、広島市の文化施設群はこんなつくり方をしてほしいという提案をした。

更に、同年12月に「この件に特化した専門家や市民による検討協議会を設置してほしい」という要望書を市に提出したり、2023年2月には移転先の再検討を求める1万5千筆余の署名を集めて市に提出した。

その要望も叶わず、活動が失速していたが、今年になって浅野文庫を新築するという話が飛び出し、どう考えてもプロセスがおかしいので、もう一度問題点を整理し、総括しようということでこの会をセットした。

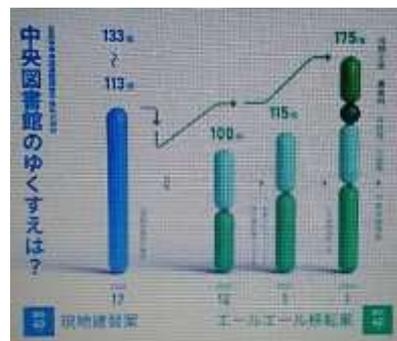
出席者メンバーの自己紹介：省略

問題提起 1

清水：2022年12月の現地建替え、中央公園内新築、エールエール館移転の3案比較の時点では、現地建替え案は113～133億円で、エールエール館移転案は100億円と算出され、移転案の方が優位と判断された経緯がある。

ところが、2023年1月には映像文化ライブラリー他の追加分として15億円上乘せられ、今年1月には物価上昇分や共用部分の新たな賃貸料や浅野文庫等の新築費用が上乘せられ、175億円に膨らむ。

当初の比較案から75億円も増え、これからもどんどん増えていく可能性がある。比較検討の前提条件が崩れた以上、もう一度初心に立ち返ってしっかり議論する必要があるのではないかと。



問題提起 2

橋本：中央図書館移転決定のプロセスを振り返ると合意形成の手続きを無視して強引に進めている感じがする。一方、サッカースタジアムの建設は時間をかけて何十回も検討協議会や作業部会を開催し、国内外の成功事例を調査し、専門家の意見を聞きながら広く市民からも要望を募り、丁寧に進めている。

国交省が定めた「地区まちづくりルール策定の全体的な流れ」を参考にすると

- ・初動期として、**きっかけ・発意** ⇒ **検討組織づくり** ⇒ **課題共有** ⇒ **推進合意**
- ・合意形成期として、**ルール案の検討** ⇒ **ルール住民案等の決定・提案等**
- ・その後、**決定手続** とある。

一般論として、中央図書館は耐震性の問題もあり、経年劣化して建て替えの時期が来たので、有識者による検討委員会を立ち上げ、市民参加型のワークショップを開いたり、数案のケースを想定して専門家に詳細を検討させ、その結果を市民に開示しながらパブリックコメントを求め、同意を得ながら最終決定を行うのが筋である。

今回の場合、検討委員会もなく、ケーススタディもせず、2021年9月に都市活性化特別委員会で唐突にエールエール移転が発表され、市民からの猛反発を受けながら予算を強行突破した。広島市議会も市のやり方があまりに強引すぎると批判し、丁寧な検討と説明を求める以下3点の付帯決議案を全会一致で可決した。

- ① 関係者から広く図書館の再整備について意見を聞いた上で図書館整備方針を作成する
- ② 現地建て替え、中央公園内等での移転、エールエールA館への移転の3ケースを比較検討し、関係者の理解のもとに決定する
- ③ 基本設計・実施設計の各段階においても、関係者の意見を広く取り入れる

この付帯決議②により、比較検討をコンサルに委託したが、中央公園内の移転案は無視され、エールエール移転案を優位づけるための資料作りに終始していた。①を検討する委員会もなく、③も履行されず、市民からのパブリックコメントも中央公園内の整備を希望する人が圧倒的に多かったにもかかわらず無視された形である。

2022年12月に検討委員会の設置を要望した際も、図書館協議会があるからと拒否されたが、この協議会は図書館内部の運営の話がメインで館長への諮問機関ではない。

意見交換

宮崎：先週、生涯学習課に面談に行ったが、そこで市は最初からエールエール移転案がいいと思っていたと言い、エールエール館を管理運営する市の第3セクター広島駅南口開発株式会社の救済が目的であったことも匂わせていた。しかも主管課では決められないと音を上げていたのには驚いた。やはりエールエール移転ありきの3セク救済が目的だった。

このことを多くの市民が知らないのはマスメディアがしっかり取り上げてこなかったからであり、公共放送がこの問題をほとんど取り上げていないのは由々しき問題だと思う。

橋本：少し調べた人は第3セクター救済が目的であることを知っている。第3セクターは赤字が続き、市が補填しなければならない状況という。もしそうなら、第3セクターを救

済するために移転させなければならない理由を市民に説明すべきである。それをしないで、いかにも立派なものを作っているかのように見せるのは詐欺的進め方ではないか。

また、子ども図書館・中央図書館・映像文化ライブラリーを集約させて移転させることが出発点となっているが、これは国から公共施設最適化事業債という地方交付金を投入してもらうのが狙いである。その適用の期限が迫っていたので、急いだようだ。

市民の反発により子ども図書館は子ども文化科学館に残すことになったが、そのため移転させた子ども図書館の跡に青少年センターを移す当初の予定が狂い、青少年センターは3階の2部屋だけに縮小される計画となっている。今、利用している文科系の青年たちはこのことを知っているのだろうか。

今田：怒りが込み上げてきた。カミハチキテルのまちづくりなど行政と近い所で活動したり、今多くの市や町で成功している市民と協働による図書館づくりの情報を市に提供している。市の職員と話したら、多くの人がエールエール移転はおかしいと思っている。

一般市民も図書館問題はエールエール移転で決まったものと思っているし、市も予算を通して作業を着々と進めているように見えるが、実はそうではないかもしれないという一縷の望みを捨てないでやっていきたい。

清水：怒りを通り越して恨みを忘れないでいたい。一つのうそを取り繕うために次々にうそを重ねている感じがする。広島は体育系が強いまちだが、もう少し文化を大事にしないと若い人たちが逃げていく。自分はこれまで政治と距離を置いてきたが、広島の文化を担っていると自負する人間として、身近に起きたこの図書館問題は決して見過ごせない。

谷口：怒り、恨みと続いて、私は悲しみに沈んでいる。1年半前にみんなが集まった時には怒りをもって、何とか良くしたいとの強い思いで、体に鞭打って頑張ってみたが、何も変わらなかった。こんな状況に若い人たちは絶望して広島に戻って来なくなるのでは？

広島は自然豊かで人柄もよく、地政学的にも恵まれた環境にあり、その上に文化的な環境を整えば、最強のまちになり得る可能性があるのに今の市政に対して残念で仕方ない。

平尾：大学で学生に生涯学習の話をしている。生涯学習には学校教育と家庭教育と社会教育がある。社会教育は公民館や図書館等で学ぶもので、戦後の民主化に伴い、市民に民主主義の精神を根付かせ、市民力をつけるのが目的である。その社会教育施設である図書館の整備プロセスが非民主的で不誠実であることに怒りを感じる。

だが、今の状況も大きな声を上げてこなかった自分たちにも責任があり、反省するとともにこれからは怒りを忘れず、未来への希望をもって取り組まなければならないと思う。

安彦：私も怒りが強いが、「シビックプライドを考える会」を立ち上げた私たちがあきらめると、一般市民の方々はもっと無関心になるだろう。ここは踏ん張って、問題点等を市民と共有しながら一緒になって市政を変える方向で頑張っていかなければいけないし、議員に任せっきりにするのではなく、市議会の動きなどを注視していくことが大事である。

(会場より)

・自分は旅行好きで中四国をよく旅するが、オーテピア高知図書館に立ち寄った時、なんて楽しいところだろうと思った。ディズニーランドにいるようで、建物もグッドデザイン賞をもらい、何年もかけて検討したことが誇らしげに掲示されていた。それに引き換え、エールエール館に移転するという話を聞いたとき、愕然とした。

・高校生の新聞部に入っているが、青少年センターが2部屋に縮小される話を聞いて、我々は大事にされていないなァと感じた。若者は声を発しにくい状況にあり、行政からバカにされているような気もするが、これからは若い人の声をもっと発信していきたい。

・自分は結婚して子育てで大変になった時、広島市から環境の良い廿日市市に500mほど引っ越した人間である。ソフトウェアのエンジニアの仕事をしているが、広島は文科系の人が活躍しにくいまちだと感じるし、それが停滞の一因ではないかと思う。

コメント

第3セクター救済のために図書館を移転させるという由々しきことを市がやっているとすれば、広島の恥である。実態をさらけ出して市民に周知すれば、市民も立ち上がるのではないか。不動産の管理運営を市幹部の天下りが行っていること自体、時代錯誤も甚だしい。これをきっかけに市民力がアップすることを期待したい。(瀧口信二)